

日本音楽学会第63回全国大会 プログラム

大会第一日 11月24日(土)

9:00～ 受付(開法会館3階)

多目的ホール(3階)		研修室1(3階)	研修室2(3階)	研修室3(3階)	和室(1階)	
9:30-9:35	開会の辞 会長挨拶 日本音楽学会会 長 磯山雅					
9:40-11:10	Symposium 1(90 min.) オープニングシンポジウム:三 大世界宗教と「音」の表現 予定パネリスト:金澤正剛(東 日本支部)、水野信男(ゲスト)、 藤井知昭(中部支部) コーディネーター:司会:龍村 あや子(西日本支部)	9:40-10:20	Session A 司会:岡田暁生 A-1 初山陽子(中部支部) ディクソンの視点から見た ヘンデル《メサイア》の ヴァージョンごとの考察	Session B 司会:椎名亮輔 B-1 大矢素子(東日本支 新楽器開発と先端科学— 20世紀前半フランスを一例 に(仮)		
		10:25-11:05	A-2 山田高志(西日本支 四旬節期間の“娯楽”、人形 劇オペラ—ナポリ・フィオー レンティ—ニ劇場において人 形劇を上演した喜劇俳優O ゼッキの遺産目録(1775)より (小休止)	B-2 神保夏子(東日本支 マルグリット・ロンとドビュッ シー—近代フランス・ピアノ 音楽の演奏における「伝統」 意識の形成をめぐる (小休止)		
11:15-12:45	Symposium 2(90 min.) 地域発、生活発、共同体発、 1950年代以降のキリスト教各 派の新しい讃美歌—伝統と 信仰の普遍性を越えて パネリスト:長畑俊道(東日本 支部)、小栗献(ゲスト)、他予 定 コーディネーター:山本 美紀(西日本支部)	11:15-11:55	Session A 司会:岡田暁生 A-3 坂手佳絵(西日本支 アンシャン・レージュ末期の オペラ作品上演に関する一 考察—F. J. ゴセックのトラ ジェディ・リリック《テゼ <i>Thés ée</i> 》(1782年)と王立音楽ア カデミー—ヴェルサイユ宮 殿オペラ座での復活上演 (2012年11月)の報告	Session B 司会:椎名亮輔 B-3 平野貴俊(東日本支 フランス国営放送RTFによる 音楽番組制作の実践とその 理念—「実験クラブ」の活動 を中心に	Session C 司会:津上英輔 C-1 吉川文(東日本支部) アルファベットの音名表 記法—音を文字で表すこと	Session D 司会:楠崎洋子 D-1 谷本裕(西日本支部) 武満徹《夢窓》の庭—創 作の源泉としての庭園
		12:00-12:40	A-4 長屋晃一(東日本支 語および音楽の選択と配置 からみたヴェルディ《ファル スタッフ》のドラマトウギー	B-4 田崎直美(東日本支 フランス第四共和政前期 (1946-54年)の音楽政策:国 営ラジオ放送におけるフラン ス国立管弦楽団の検証よ り	C-2 宮崎晴代(東日本支 Berkeley Manuscript (MS.744)における5つの音 楽論—14世紀末の音楽理 論に見られる伝統と革新	D-2 竹内直(西日本支部) 早坂文雄と12音技法の関わり —《交響的組曲「ユウカ ラ」》の未使用稿に基づく考 察
昼休み(12:45-13:40)		昼休み(12:40-13:40)				
13:40-15:10	Symposium 3(90 min.) 日本音楽史・芸能史はどのよ うなノドのように歴史であるか パネリスト:新堀敏乃(東日本 支、篠原将成(非会員) コー ディネーター:齋藤桂(西日本 支部)	13:40-14:20	Session E 司会:藤枝守 E-1 上野大輔(東日本支 シェーンベルクの12音技法 における伝統的手法—『ピ アノ組曲』Op.25を例に	Session F 司会:大田美佐 F-1 上田泰史(東日本支 第二帝政期のバリ国立音楽 院とピアノ練習曲(1852~ 1870)	Session G 司会:藤本一子 G-1 安田和信(東日本支 W. A. モーツァルトの「再現 部」における「再配列 Reordering」について	Session H 司会:大角欣矢 H-1 深堀彩香(中部支部) 16-18世紀におけるイエズス 会の宣教活動で用いられた 音楽—日本とマカオを中心 に
		14:25-15:05	E-2 和田ちはる(東日本支 部) P. デッサウ《バルトルト・ブレ ヒトの思い出》をめぐる一 再考	F-2 小石かつら(西日本支 部) ライプツィヒ・ゲヴァントハウ ス管弦楽団にみる演奏会プ ログラムの変遷	G-2 伊藤綾(東日本支部) ベートーヴェン歌曲の統辞 論的研究—《あこがれ》 WoO 134全4稿の比較分析	H-2 福地勝美(東日本支 部) オートー・ヤーンとセンリア (チェチャーリア)運動
昼休み(12:45-13:40)		昼休み(12:40-13:40)				
15:15-16:45	Symposium 4(90 min.) 「装飾」と演奏の再創造 パネリスト:三島郁、山名敏 之、落合理恵子(以上、西日 本支部)、笠原雅仁(非会員) コーディネーター:落合理恵 子(西日本支部)	15:15-15:55	Session E 司会:藤枝守 E-3 奥村京子(西日本支 リゲティ《アトモスフェール》 の原風景とその作曲行程	Session F 司会:大田美佐 F-3 友利修(東日本支部) 1830・40年代のNeue Zeitschrift für Musik の報 道におけるフランスの音楽 状況	Session G 司会:藤本一子 G-3 堀朋平(西日本支部) マイヤホーフアーと『太陽の 都』の両義性—シュールベ ルトのロマン主義の—源泉に ついて	Session H 司会:大角欣矢 H-3 牧野環(東日本支部) Thomas Tallis の英語作品 に見られる one note / one syllable rule—英国国教会 の礼拝音楽における宗教改 革
		16:00-16:40	E-4 沼野雄司(東日本支 「組織された音響」とは何か —E. ヴァレーズと20世紀の テクノロジー	F-4 西田絃子(西日本支 ハインリヒ・シェンカーによる 運指法の特徴—ベートー ヴェンの最後のピアノ・ソナ タ批判校訂版を例に	G-4 藤田茂(東日本支部) メンデルソーンの創作におけるリズ ムと神性	H-4 太田峰夫(東日本支 ツインバロン科の生徒達は どこからやってきたのか—音 楽学校の学生原簿から見た 19世紀末ハンガリーのナ ショナリズム運動
16:50-18:20		休憩(10 min.)				
総会(90 min.)		会場移動→				
		18:50-20:50	懇親会(京都東急ホテル) 120 min.			

大会第二日11月25日(日)

5:50-7:00	晨朝勤行(西本願寺阿弥陀堂)
-----------	----------------

多目的ホール(3階)		研修室1(3階)	研修室2(3階)	研修室3(3階)	和室(1階)	
9:30-11:00	Symposium 5(90 min.) パフォーマンス・スタディーズの「現在」—西洋芸術音楽研究におけるその可能性と課題 パネリスト:黒川照美、館里里沙、神保夏子(以上、東日本支部) コメンテーター:中村美亜(東日本支部) コーディネーター:神保夏子(東日本支部)	9:30-10:10	I-1 三枝まり(東日本支部) 諸井三郎の創作の原点をめぐって—戦前の音楽活動を中心に	J-1 川田早苗(東日本支部) ルイ14世および15世治下の王室礼拝堂のテネブルの聖務で聴かれた音楽—ルソンド・テネブルの演奏実践を中心に	K-1 近松博郎(東日本支部) J. バッヘルベルの音楽マニフィケート研究—作品様式の分析と考察	L-1 明土真也(東日本支部) 音高の記号性と梵鐘の基音
		10:15-10:55	I-2 加藤拓末(東日本支部) 日本のオラトリオの原点—安部正義オラトリオ《ヨブ》の資料・初演・受容	J-2 平井真希子(東日本支部) 斜行的なオルガスム—12世紀のポリフォニー構成原理についての一考察	K-2 山上揚平(東日本支部) 信仰を支える「音楽学」—王政復古—第二帝政期における聖歌復興論者の音楽史と音楽理論	L-2 園田郁(西日本支部) 語り物の「朗誦」を考察する—近代・地方の人形芝居を事例に
		(小休止)	(小休止)	(小休止)	(小休止)	
11:05-12:35	Symposium 6(90 min.) 現代オペラの可能性と限界 予定パネリスト:沼野雄司、広瀬大介(以上、東日本支部)、野平一郎(非会員) コーディネーター:福中冬子(東日本支部)	11:05-	I-3 中村滋延(西日本支部) 作曲家今史郎、その再評価への試み	J-3 七條めぐみ(中部支部) ドイツ・バロック組曲におけるフランス趣味の美態—フローベル、ドビュッシーの転調法の相違と音楽におけるコンシテ	K-3 荒川恒子(東日本支部) ザクセン選帝侯国における教会音楽について—ヨハン・ゲオルク2世からフリードリヒ・アウグスト2世の時代にかけて	L-3 丹羽幸枝(東日本支部) 観世宗師『誦抜書』における室町末期の謡の旋律の類型性
		11:50-	I-4 水野みか子(中部支部) GRMにおける1970年以前の邦人作曲家の仕事について	J-4 石井明(東日本支部) 18世紀後半のベルリンにおける対位法が用いられた音楽作品の受容—テレマン作曲カノンによるソナタ作品5のベルリン写譜の検証	K-4 大崎滋生(東日本支部) ベートーヴェンと楽譜出版[2]—1809年5月第2次ウィーン占領以後、1820年まで	L-4 鈴木良枝(西日本支部) テンポ変化の実証的研究—パリのガムラン 音楽を事例に
		昼休み(12:30-13:35)				
13:35-15:05	Symposium 7(90 min.) 宗教音楽の価値を考える基準とは何か?—近現代日本仏教界の事例を中心に パネリスト:白石知雄、山口篤子(以上、西日本支部)、新堀敏乃(東日本支部) コーディネーター:福本康之(東日本支部)	13:35-14:15	M-1 照屋ナツキ(西日本支部) 復帰後沖縄の音楽活動にみるウチナーンチュの社会意識	N-1 安川智子(東日本支部) 伴奏づけ Accompanimentから旋法の組織化へ—フォーレ、ドビュッシーの転調法の相違と音楽におけるコンシテ	O-1 井口淳子(西日本支部) 上海租界と20世紀音楽—亡命ロシア人とユダヤ難民による音楽活動	P-1 福島睦美(西日本支部) I. アルベニスとJ. マラツの往復書簡から見る《イペリア》の作曲過程について
		14:20-15:00	M-2 三島わか(東日本支部) 外来の宗教活動にみる「土着化」—近代沖縄を事例に	N-2 西田論子(東日本支部) ショパンの《ファンタジー》作品における調的三重性	O-2 岩井正浩(西日本支部) 板東ドイツ軍俘虜収容所における音楽活動—2人の音楽家をめぐって	P-2 内藤多寿子(東日本支部) フェデリコ・モンボウと1920年代スペイン(仮)
		(小休止)	(小休止)			
15:10-16:40	Symposium 8(90 min.) クローヅィングシンポジウム:宗教音楽の「研究」はいかにあるべきか パネリスト:佐々木健一(非会員)、大角欣矢(東日本支部)、田中多佳子、藤田隆則(以上、西日本支部) コーディネーター:磯山雅(東日本支部)	15:10-15:50	M-3 大西秀明・大西バメラ(東日本支部) フィリピン・クリンタンにおける即興の再興:音楽理論と民族音楽学を組み合わせた新たな教育法の提案	N-3 木本麻希子(西日本支部) S. プロコフィエフ『ピアノ・ソナタ』構造研究—音の組織化と響きのパドックスの問題		
		15:55-16:35	M-4 山本美紀・中村滋延・根岸一美(西日本支部) 「教育プログラム」としての作品創作的試み—中村滋延「悲しみの島」プロジェクトと教科領域への挑戦	N-4 加藤幸一(中部支部) 調性概念の限界、音楽学・音楽理論の「ジレンマ」		
16:40-16:45	閉会挨拶 実行委員長 龍村あや子					

*シンポジウムはそれぞれ90分以内でお願いします。 *個人発表は、発表時間30分、質疑10分、次の発表者との入れ替え5分です。